

# 現代まで 2000 年以上続く墓地！

# 発掘新聞

1月10日号

平成 25 年度第 8 号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

## 東九州自動車道に伴う 調査、最終盤！！



上毛町鏡迫古墳群(かがみさここふんぐん)で発掘中の石蓋土墳墓(本館撮影)

現在当館が調査を行っている築上郡上毛町の鏡迫古墳群(かがみさここふんぐん)で、弥生時代(約2千年前)を中心としたお墓が30基以上見つかった。



古墳群は上毛町の上唐原(かみとうばる)という大分県との境近くに位置しており、遺跡からは津市街が見え、周防灘・国東半島を一望できる。見つかったのは弥生時代のお墓である「石蓋土坑墓(いしぶたごころうぼ)」や「箱式石棺墓(はこしきせつかんぼ)」で、共に石を用いて棺や蓋としている。現在の所、墓の中からは副葬品は見つかっていないものの、魔除けの効果があるとされる赤色顔料が塗られた墓なども見つかつており、今後の調査に期待がかかる。

この他にも古墳の一部と考えられる溝や江戸時代、明治時代以降の墓も発見されており、発掘前にも墓地であったことから、弥生時代〜現代まで長きに渡って墓地とされてきたことが分かる。

またお墓の他に、左の写真のように1450年前の須恵器が崖面近くから見つかっており、お供え物であった可能性があるという。調査担当小嶋主任技師の話「これだけのお墓があり現代までで100人以上は埋葬されていたと思う。高速道路ができる前に詳細に記録をとりたい。」調査は今年3月で終了する予定で、平成19年度から行ってきた東九州自動車道に伴う発掘調査も、この遺跡でほぼ終わりを迎える。今年度末には行橋まで、平成26年度末には大分県まで開通する予定である。(城門記者)



崖際で見つかった須恵器(本館撮影)



整理室で洗浄中に見つかった遺物(本館撮影)

「整理室の窓から…ウマ？バク？謎の生物出現！？」  
右写真は中庭から見える整理室で洗浄中に見つかった遺物である。行橋市の延永ヤヨミ園遺跡で発掘され大きさは横10cm程である。まるで服を着たウマやバクのように見え、とても愛くるしい顔をしている。

コレ、実は勾玉の一種で、上の突起にさらに小さい勾玉が付く「子持勾玉」と呼ばれるものである。見つかった直後から作業員さんの中で人気を集め、今回午年ということもあり登場に至った。

整理室を覗いてみると、まだ整理中の珍しい遺物が並んでいる場合もある。整理の状況が見られる本館の醍醐味のひとつであろう。